

2014 年度 事業報告

2014 年 1 月 1 日から 2014 年 12 月 31 日まで

特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド

はじめに

環境保全や持続可能な社会の実現が一層重要な社会課題となる今日、生態系のトップに在り絶滅危機のシマフクロウが将来も安定して暮らすには、地域住民をはじめ多くの人々が環境保全や生態について理解し協力を進めていくことが不可欠です。

シマフクロウ・エイドはこのグローバルな課題解決に向け、ローカルな取り組みを強化するため、法人設立から 7 年度目は、調査の深化と環境教育の充実に向けた観察小屋造りに取り組みました。

設立当初から活動の基盤となるシマフクロウの調査等保護・保全活動は今年も継続して実施し、その成果還元の取り組みとして、環境教育やイベント等直接体験によって伝えたほか、SNS や会報等ツールによる多角的な広報を行いました。その結果、個人や企業・行政・団体等の協力や支援を得ながら、地域や社会に向けて、地域一体でのシマフクロウ保護の社会的重要性に理解や関心を推進しました。

I 保護・保全・支援事業

1. シマフクロウの繁殖支援

1) 補助給餌

絶滅のおそれのあるシマフクロウの繁殖を補助し給餌を実施するにあたり、おさかな寄付で活きたヤマメを購入し、専用給餌池へ1月から12月までに合計7回、210 kgを放流し、通年にわたりシマフクロウが魚を食べに飛来したことを確認しました。法人が設立した2008年から2014年12月までの給餌量は、累計55回1470 kgとなり、巣立った雛は10数羽になりました。



2) 給餌のための募金活動

「おさかな寄付」の募集をホームページやフェイスブック等SNSをはじめ、会報や、イベント、セミナー、活動を紹介する印刷物で通年呼びかけた結果、合計159件502,468円が寄せられ、シマフクロウが食べる活魚購入費に充当しました。2008年から2014年までにこの募金活動でシマフクロウ支援に参加した個人、企業、団体は合計494件となり2,098,944円寄せられ全額活魚購入代に充当しました。募金活動を通じて、地域住民をはじめ広く多くの人にシマフクロウが置かれている現状や活魚を募集する理由等を知ってもらい、絶滅危機動物の保護や環境保全について自ら考え行動する人づくり、社会づくりを推進しました。



2. 調査、生息地パトロール

シマフクロウの保護・保全活動を適切で効果的に進めるために、既存の繁殖ペアの行動調査や生息地パトロール、繁殖確認調査、繁殖の可能性がある地域における生息確認調査を1月から12月までのべ321日実施しました。活動の成果や課題は、子どもたちへの環境教育や会員向けの会報、各研修の実施などで還元することで、関係地域や関係機関、広く多くの人々に向けて、シマフクロウの現状や保護活動について理解や関心を推進することに活用しました。

1) 繁殖ペア等の行動調査及び生息地パトロール



繁殖が確認されているエリアにおいて、成鳥、幼鳥、亜成鳥の行動を定期的に観察し、繁殖状況の把握等を行い生態等の理解を深めデータを蓄積し、環境の変化や繁殖に影響を及ぼす事項について注意を払う生息地のパトロールにも取り組み、1月から12月まで計200日実施しました。

2) 生息及び繁殖可能地域における生息確認調査

生息及び繁殖が未確認の釧路管内の3エリアで生息確認調査を121日実施し、2エリアで単独個体を確認しました。



3) 給餌池におけるシマフクロウの利用状況調査及びメンテナンス

通年にわたり、飛来するシマフクロウの採食状況や繁殖行動等を確認しデータを蓄積しました。さらに活魚を守る活動として、他の大型ワシ類等による給餌池の活魚利用を防御する対策を飛来状況に応じて実施しました。季節毎の池のメンテナンスも定期的に対応しました。



4) 調査パトロールのための募金活動

「調査・パトロール寄付」「巣箱寄付」の募集を、ホームページ、フェイスブック等SNS、会報、イベント、入会パンフレット等で通年呼びかけた結果、合計71件427,392円が寄せられ、各調査や生息地パトロール代、調査備品代に充当しました。2008年から2014年までに寄せられた調査・パトロール寄付および巣箱寄付は合計289件3,058,729円となり、シマフクロウの保護に向けた各調査代や生息地パトロール代、調査機材代、調査備品代に充当しました。募金活動を通じて、シマフクロウの現状を改善するための継続した調査やパトロールの必要性を伝え、当活動への理解や関心を推進しました。

3. 植林メンテナンス

シマフクロウの将来の生息地づくりとして、2013年に広葉樹千本を植林したエリアにおいて、その後の苗木のメンテナンスに取り組み、4月から12月までに15日実施しました。また、植林した木を守るための電気柵の効果を測定する調査に取り組み、4月から12月まで173日実施しました。周辺を利用する野生動物はセンサーカメラや目視で確認し、6月から12月までに2種の哺乳類、18種の鳥類、1種の両性類、2種の魚類を確認しました。



4. その他

1) 釧路総合振興局森林室の立木伐採計画予定地において、今年度も引き続き、当室と事前協議を行い、周辺のシマフクロウへの影響について注意を払っていただきました。

II 人材育成事業

シマフクロウの保護・調査に携わる担い手の募集や、野生動物保護や環境教育に携わる関係機関の研修を受け入れ、次世代の野生動物保護や環境保全活動の推進に寄与しました。

1. 保護の担い手等の募集

シマフクロウの保護・保全活動の担い手をホームページやチラシで通年募集し、問い合わせに個別対応しました。

2. 研修講師受託

・公益財団法人キープ協会より研修講師を受託し、シマフクロウをテーマとした保護・保全活動と教育活動について屋内外で紹介し、野生動物の生息環境の保護を目的とした環境教育について考察しました。

・JICA-国際協力機構より研修講師を受託し、各国の自然保護関係者 8 名に対し、絶滅危惧種シマフクロウの保護や当活動の取り組みについて実地研修を行いました。



・釧路地区地域子ども会育成指導者研究協議会より講演講師を受託し、当活動の取り組みについて屋内外で紹介し、地域の子どもの育成指導への活用について考察しました。



Ⅲ 環境教育事業

1. 出前授業「シマフクロウ学習」の実施

シマフクロウをテーマとした環境教育として、10月に浜中町内の小学校1校の高学年5名に向けて「シマフクロウ学習」を実施しました。1日目にスライドや教材、ゲームを取り入れた屋内学習を実施し、翌日、野外にて自然観察や保護活動の現場見学などを行い、シマフクロウの現状や保護活動について理解や関心を深めました。実施につきオリジナル教材を作成し屋内外で使用し、学習終了後のアンケート結果では、子どもたちが絶滅危機のシマフクロウや地域の自然について理解や関心が進んだ意見や感想が得られました。



2. 観察小屋造り

シマフクロウの調査・研究の深化と、次世代を担う子どもたちへの環境教育の充実に向けて、観察小屋の建設に取り組みしました。実施に当たり株式会社ラッシュジャパンの助成金を充当し、会員や町内ボランティアの計 8 名が建設作業に参加しました。



IV エコツアーリズム事業

シマフクロウが直面する問題やそれに向けた保護活動への理解と関心を深めるツアーを会員向けに募集したところ参加者 0 名でした。

V PR 事業

シマフクロウが直面する問題や当活動の取り組みを解りやすく広報し、活動に共感する仲間作りや支援の輪を広げる以下のPR活動に取り組みました。

1. セミナーの開催

昨年に引き続き、東京丸の内にてネイチャーセミナーを開催し、絶滅危機のシマフクロウの現状や当活動の取り組み等をスライドで紹介し、37名の都市民が参加しました。開催にあたり(株)三菱地所のCSRにより自然環境情報ひろば丸の内さえずり館を提供いただきました。セミナーの前座には会員等ボランティアによる楽器演奏を初の試みで取り入れました。



2. ホームページやSNSによる活動発信

通年にわたり、ホームページやフェイスブック等 SNS で活動状況や支援の呼びかけを定期的に発信し、会員は 196 名(36 名増加)、寄付は 289 件(176 件増加)となり、新たなファンや支援者獲得につながりました。
各団体登録サイトにおいては、活動状況や財務状況等を随時更新しました。

3. 印刷物による PR

1) 会報

会員向けに会報を毎月発行し、2014 年 12 月で 72 号目を発行しました。月毎の保護活動やシマフクロウの行動、関連ニュース等を紹介し、会員へ向けた一層の関心や理解を推進しました。



2) 各種印刷物

関係地域一体のシマフクロウ保護の重要性に理解や関心を進めるために、町の広報で地域住民に向けて広報を行い、作業にあたり、浜中町役場、浜中町教育委員会の協力を得ました。入会パンフレットや活動を紹介する印刷物では、イベント会場等 P R の場や新規設置協力先の店舗等で配布をしました。

4. イベント出店による P R

- ・札幌市において、6 月に開催されたプロボノ北海道設立イベントにプレゼンターとして参加し、北海道の都市民に向けて当活動の紹介やプロボノ支援の募集を行いました。



・11月に北海道東部の中標津町で開催された「雑貨マーケット in 中標津」に出店し、パネル展示やデジタル画像による当活動紹介、パンフレット等の配布、シマフクロウの繁殖を支援する冬のおさかな募金に取り組みました。道内各地から約 500 名余りが来場しました。



・11月に北海道東部の浜中町で開催された「HAMANAKA HEARING LABO」に出店し、パネル展示やデジタル画像による当活動紹介、パンフレット等の配布、シマフクロウの繁殖を支援する冬のおさかな募金に取り組みました。町内外から 800 名余りが来場しました。



5. その他の PR

日本経済新聞社電子版、北海道新聞社、読売新聞社北海道支社根室通信部、FM中標津放送、北海道 UHB TV にて当活動が紹介されました。

以上